

第34回 協会賞 決まる

真木

第 193 号

〒260-0852
千葉市中央区青葉町
1274-14
加藤峰子方
千葉県俳句作家協会
事務局
TEL 043-225-7115

〒299-1143
君津市君津台 2-8-4
石井紀美子方
「真木」編集部
TEL 0439-52-6254

目 次

第三十四回協会賞決まる	1
協会賞受賞作品	2
第三十四回協会賞選考過程	4
千葉県俳壇ニュース、結社賞	5
ひろば、会員著書紹介	6
菅谷たけしさんを悼む、文音俳句会のご案内	7
第62回千葉県俳句大会ご案内、新入会員一句、受贈誌より	8
千葉県俳句作家協会運営基金のお願い、事務局日誌	9

俳壇には俳人協会・現代俳句協会・伝統俳句協会の全国組織の三団体があり、殆どの結社・俳人はその団体に所属し、活躍を続けている。県内の文化の向上の一助となるべく、お互いの主張を理解し、交流を図りたいと千葉県俳句作家協会は活動の場を広げてきた。その一つに「協会賞」がある。毎年、協会所属作家の二十句を一篇とした作品を募集し、審査員の選考を経て受賞者が決まる。本年度も昨年十二月十五日に応募を締め、応募二十篇の氏名を伏せ、別記八名の審査員に選考を委託、二月十一日に最終選考会を開催。熱の籠った真摯な討論を交わし、本年度の「第34回千葉県俳句作家協会賞」が決った。その過程は後述の「選考過程」をお読み下されば幸甚である。

本賞は県内作家の資質の向上、県民文化の振興を意図した文芸賞。多くの応募者の熱意と平素の研鑽に大きな拍手を送りたい。協会賞他の受賞作家は一つのステップを越された。これを機に更なる研鑽を重ねられ大きな作家に育って欲しいと期待を深めている。協会としても各俳句総合誌への働きかけ等のお力添えを重ねてゆく所存である。

贈賞式は五月十七日(日)の通常総会を予定していたが、新型コロナウイルス禍で中止となり、発表は四月発行の「真木」紙上、表彰は秋の俳句大会にて行う予定である。

来期第35回協会賞に、更に多くの会員諸氏の力作をお寄せくださるようお願いしてやまない。

(審査員 塩野谷仁)

- | | | |
|-----|--------|----------------|
| 協会賞 | 「冬林檎」 | 梅津 紀子 (千葉市) |
| 次席 | 「微熱」 | 坂本 茉莉 (浦安市) |
| 佳作 | 「雲一筋」 | 森 祐司 (松戸市) |
| 同 | 「寒の入り」 | 筧 隆代 (松戸市) |
| 同 | 「日焼」 | 堀合 優子 (東京都文京区) |

審 査 員

- | |
|---------|
| 秋 尾 敏 |
| 川 合 憲 子 |
| 三 枝 かずを |
| 塩野谷 仁 |
| 田 所 節 子 |
| 能 村 研 三 |
| 増 成 栗 人 |
| 村 上 喜代子 |



協会賞選考会

協 会 賞



梅 津 紀 子 (千葉市)

「冬 林 檜」

木の洞の思はぬ深さ冬夕焼
 落葉掃くときをり空を見上げては
 神の留守鏡に映る掛け時計
 マフラーをほどこ呼吸のまだ荒し
 冬めくや銀鼠色の葉紐
 レコーダーに吸はれゆく声日短
 クリスマスツリー背伸びの子の蹠
 歳晩や吊りて売らるるソーセイジ
 QRコードは迷路冬深し
 正門は閉ざされしまま散紅葉
 グラタンに焦げ目うつすら窓に雪
 白菜を割りて光を飛び散らす
 磨かれて鳴り出しさうな冬林檎
 トラックよりつぎつぎポインセチアの荷
 古書店の奥に階段雪もよひ
 綿虫や消息知れぬ人のこと
 充電中スマートフォンも裸木も
 他人の子の我儘ゆるす冬木の芽
 風花や踏切のバー揺れのこる
 数へ日やするする床屋の回転灯

微 熱

坂本 茉莉

協会賞 次席

蜷の道心とふ字の残りたる
 いかのぼり空の真中の昼の月
 連風の上下にちがふ風の吹く
 鷹鳩と化す電極の陰と陽
 花冷の流れ作業の端にをり
 種蒔いて何かなしとげたる心地
 花屑も糞も掃かるる檻の内
 結界を越えても蛇のついてくる
 のどけしや螺旋の渦の左巻き
 鳥の巢にのこる微熱のやうなもの
 春夕焼船出のやうな雲のあり
 ロボットの手足なめらか復活祭
 貫頭衣すとんと春を惜しみけり
 みづうみの底の明るさ更衣
 箱庭に傘さしかけてる男
 河骨の花咲くまでの水の嵩
 水湧いてすぐに小流れ木下閘
 干草の匂ひ幸せとはこんな
 半身を流れにまかせ馬洗ふ
 夏の霧抜けきて違ふ顔となる

協会賞 佳作

雲一筋 森 祐司

岩削る水の耀きレノンの忌
 髭剃つて鏡の中の寒さかな
 ストープあかあか進行中の黙
 息白く耳より先に歩き出す
 沼べりへ狸の道の枯の中
 寒禽の水輪が水輪ゆるめけり
 火の神の磴ゆくほどに冬紅葉
 二礼深々手袋の手を合はす
 枝打ちの傷しらしらと冬薔薇
 切り貼りに済ませし障子朝の燦
 青めいてまだ新しき寒卵
 枯枝に十ほどただの雀なり
 果しなき夢とも山茶花二百
 冬至風呂縄文遺跡の上に住む
 義士の日なり押されて降りる分岐駅
 紅祀る遊女の墳よ日の短
 ウオツカ二杯目雪となる雪になる
 独り居に風のなき日よ藪柑子
 落葉踏みオルガンの音に誘はるる
 十二月雲一筋のやはらかし

協会賞 佳作

寒の入り 寛 隆代

山笑ふあそびの虫が騒ぎ出す
 摘み残る菜が咲きそろひ春休み
 肩先にみづうみの冷え初ざくら
 鳥ぐもり今日より変はる担当医
 たんぼぼの絮や行く先決めぬ旅
 あるだけの鉛筆削り新樹の夜
 道しるべ通り来たはず蛇莓
 ひまはりの挫折といふを知らぬ丈
 海光とブーゲンビレア島真昼
 尺蠖をつまんでしまひたるこの手
 思ひ出も支へのひとつ鱗雲
 子に姪に送る荷造り柿日和
 祝事のすなはち出費鳴鳴けり
 仁王門つきぬけ釣瓶落しの日
 覗かるること嬉しくて菊日和
 柿ひとつ残る青空一茶の忌
 梯子降りおりては登り柚子日和
 吸ひこまれさうな青空枯野道
 火の海となりし夕空寒の入り
 寒夕焼狂気しづかに胸の内

協会賞 佳作

日 焼 堀合 優子

熱砂蹴りテントの支柱打つ男
 夏波に馴染ませてゆく手足胸
 白南風や砂のお城にベビーカー
 空を飛ぶ夢に揺れをりハンモック
 壮年の漂つてゐる浮輪かな
 波乗の男遠くを見てきたと
 集合写真首肩腰の浮袋
 身をよぢり脱皮と思ふ水着かな
 水着包むタオルは海の重さかな
 窓に干すハンカチ旅の空の色
 一条の光を発す洗ひ髪
 サンドレス己を信じるる背中
 大花火轟音海を這ひきたる
 火花に叫ぶ赤子は言語獲得前
 日焼せし夫のくちびるしよつぱかる
 夏蝶の群がる水の秘菜めく
 自転車漕ぎ雷神と駆け比べ
 赤ん坊の軽き寝息を涼しめり
 端居せる老の視線の先を追ふ
 遠雷や誰かが天に召さるるか

第三十四回協会賞選考過程

協会賞の最終選考会は、二月十一日、千葉市の「ホテルポートプラザちば」において開催された。選考委員八名全員出席のもと、選考基準等を確認した後、予備審査の結果を参考に活発な意見が交わされ、別表の通り決定した。(文中敬称略)

応募作品は次の二十篇(到着順)。「浄土ヶ浜」井上けい子、「令和の秋」藤井元基、「冬ひと日」里村健一、「昭和」平山武彦、「スポーツ讃詠」末原正彦、「五月雨」巻田泰治、「羽繕ひ」平野みち代、「北帰行」神田たかし、「日焼」堀合優子、「雲一筋」森祐司、「天球」高橋敏夫、「寒の入り」寛隆代、「鈴日和」斉藤るりこ、「蛭」大久保文夫、「年暮るる」飯田協子、「微熱」坂本茉莉、「虫の闇」古谷誠司、「冬林檎」梅津紀子、「聖樹」中川素子、「はらから」宮崎高根。

応募作品の得点順では、「冬林檎」26点。「微熱」20点。「雲一筋」17点。「寒の入り」14点。「日焼」12点。以下、「冬ひと日」と「羽繕ひ」が8点、「蛭」6点、「鈴日和」3点、「天球」2点、「浄土ヶ浜」・「北帰行」・「年暮るる」・「虫の闇」が1点であった。

これらの得点・順位を踏まえて、得点上位の作品から順に審議に入ることが確認された。

最高点の「冬林檎」は、二位作品との得点差が大きく、審査委員全員が五位以内に推薦し、しかも内二名が一位に推していることから、まず協会賞への声があがった。全体的に句が揃っていて、意欲的な作品も多く、句材も良い。また、句意も明瞭で詩としてバランスがとれているなど、評価

が高かった。一方、句づくりは巧いが既視感のある句も見え惜しい、との評価もあった。

次に、次席の作品選考に入る。二位の「微熱」は、三名の委員が一位に推した作品。穏やかな詠みぶりながら、感性の光る句が多かった。詠み方に発見が感じられる、一歩踏み出そうとしているところが見える。また季語とのとり合せの間合いの巧さがある、という評価のほか、やや作り過ぎという指摘もあった。高い得点、三位以下の作品との得点差から、これを次席と決定。

続いて佳作作品の選考に入ったが、得点順に見ると、二桁得点の三作品「日焼」「雲一筋」「寒の入り」である。得点の高い作品より審議に入った。

「雲一筋」は一位に推す者一名。やさしい表現で暮らしの哀楽を詠い好感が持てたこと、句材も新しく、感覚的で個性もある、など全体的にまとまりが良かった点を評価。まず佳作と決定。次に「寒の入り」。一位に推す者一名。力があり句作りが上手、佳句が多かった。ただ誤字が見られたり細やかさに欠ける感ありとの指摘もあったが佳作。「日焼」は自己表現に至らうとする若さを感じさせ、内容も新鮮、意欲的な作品として佳作とした。

(染谷 卓紀)

★協会賞選考基準

- ①委員の半数以上が五位以内に推薦した作品であること。
- ②委員の一人以上が一位に推した作品であること。
- ③右の①②の条件を満たしていることを基準とするが、場合によっては①②のいずれかに該当していれば審議の対象とする。

第34回 協会賞入賞作品審査表

(応募作品 20篇)

番号	表題	成績	審査員査定順位								得点	作者名	住所	所属結社		
18	冬林檎	協会賞	4	4	1	1	2	3	3	4	26	梅津 紀子	千葉市	いには		
16	微熱	次席	3	1	4					1	20	坂本 茉莉	浦安市	いには		
10	雲一筋	佳作	2	5		2				1	3	17	森 祐司	松戸市	鴻	
12	寒の入り	佳作			2	3	1					4	14	寛 隆代	松戸市	
9	日焼	佳作	1	3								2	12	堀合 優子	東京都文京区	いには
審査員 (50音順)			秋尾 敏	川合 憲子	三枝かずを	塩野谷 仁	田所 節子	能村 研三	増成 栗人	村上喜代子	【採点】 1位=5点 2位=4点 3位=3点 4位=2点 5位=1点					

千葉県俳壇ニユース

第四十九回千葉市民芸術祭参加 市民春の俳句大会

市民春の俳句大会は（令和二年三月八日 於・市民会館）新型コロナウイルス感染症拡大防止のため千葉市のご指導で中止になりました。事前投句作品（兼題の部）は四六六句。作品集より兼題の部の上位入賞者を紹介します。

入賞者（○内は順位）
千葉市長賞

ゆづられし席も冬日もあたたかし 伊藤 明美
市議会議長賞

死ぬのつて難しいのよ枯蠅 椿 良松

千葉日報社賞

厚焼の玉子勤労感謝の日 相馬詩美子

千葉市観光協会賞

水の春かいつぶりまたかいつぶり 吉橋 久明

⑤ 屋根に人空に穂音草は実 長濱 聰子

⑥ 三百万の一角終戦日 渡辺マサ子

⑦ 使はねば鳴かぬば忘る猫火鉢 五十嵐紀子

⑧ 摩擦臭させて電車来雪催 古木真砂子

⑨ 憂国忌事件加担の友何処 黒川 秀夫

⑩ キヤタピラの日ごとに重き春の泥 坂本 正夫

⑪ 御巢鷹は人恋ふ山よ辛夷咲く 藤田 満

⑫ 搾乳の牛舎をぬけて風光る 布施 和子

⑬ 冬桜はげますやうな空の青 小林 共代
⑭ 菜の花へ吸い込まれ行く前車両 西本るり子
⑮ 大辛夷咲きて一村農に入る 出川 雅子
（昼間たつお記）

とつぱづれ銚子俳句大会

令和二年三月八日、銚子市市民センターで開催予定の俳句大会は、新型コロナウイルスの影響で中止になった。作品集より入賞句を紹介する。

兼題の部（上位入賞句は次の通り。○内は順位）
① マスクして尖る言葉を含みけり 渡辺美千子

② 梵鐘の一打の余韻返り花 須田 良子

③ 熱燭のさめたる如き余生かな 伊勢 埴大

④ 屏風ヶ浦雲を巻き込む冬怒濤 奥村 利夫

⑤ 玉子酒いつか一人になるふたり 矢萩ゆたか

⑥ シーソーの向かひに冬の空のせて 森川 哲男

⑦ 小鳥来る埴輪の家に窓二つ 多辺田 操

⑧ 妻と影ときに重ねて表を踏む 坂本 正夫

⑨ あるがまま生きる幸せ鱗雲 増田都美子

⑩ 秋天を広げて庭師帰りけり 石毛 勝子
（小林子雀報）

帆翔賞（第三回）小出 功

寒昂我を励ます私のあて 功

帆翔賞準賞 高木加津子

たつた今虹立ちしこと文頭に 加津子
（「百鳥」一〜三月号より）

令和元年度鳴賞・新人賞

鳴賞 和田紀夫・鎌田光恵

地の力集めて空へ今年竹 紀夫

大根を運ぶに坂を叱りをり 光恵

新人賞 奥井あき・足立良雄

ながなし夜半にしるじろ梨をむく あき

綿虫をバットで払ふ打席かな 良雄
（「鳴」一・二月号より）

いには同人賞・いには賞

いには同人賞（第十回）小見恭子 恭子

噴水の烟る向かうに曼荼羅展 敦宣

いには賞（第十四回）齋藤敦宣・ひめみや多美 多美

鞭韃といふ哀しみの置き所 多美

トキワ荘めく階段や百千鳥 多美
（「いには」二月号より）

令和元年度「夏日」特別作品入賞（一席〜五席）

赤いひまはり衝撃の色恋の色 畑 由子

秋光やかもめは風を走らせる 丸澤 孝子

朝日燦燦夏期合宿の仮土俵 北村 綾

ありのままの自分大事に衣かつぎ 河野 悦子

松虫草へ屈み人声遠くなる 佐藤かほる
（「夏日」三五六号より）

令和二年度「雑草」各賞

雑草賞 岡村 英 英

三千の棺を一艦沖縄忌 英

新人賞 岡田静香 静香

春浅し薄墨の山たおたおと 静香
（「雑草」三月号より）

結社賞

第二十六回鳳声賞・百鳥賞

鳳声賞 三木星音子

栗飯や余生生き抜く力得し 星音子

百鳥賞 秋山 寛

草を食む山羊も羊も虹の中 寛

会員著書紹介

野田俳句連盟創立七十五周年記念

●句文集『青葙』 野田俳句連盟 編

野田俳句連盟（会長秋尾敏氏）は創立七十五周年に当たり、年二回開催の俳句大会が百五十回となり記念誌を刊行した。「序」と「野田俳句史」を秋尾敏、「野田俳句連盟の歩み」椎名鳳人、「エッセイ」青木一夫他八名、「句碑めぐり」松澤龍一等の各氏が執筆。俳句は八十九名・一人五句ずつを収載している。その他「過去の大会記録」「吟行会記」などを編纂し、当俳句連盟の活動を記す。

本誌は第百回俳句大会記念誌『青野』に次ぐ第四集。当協会会員の俳句のみを紹介する。

固いドアノブ月光を寄せ付けず	秋尾	敏
寺町の奥に奥あり昼の虫	荒木	洋子
小鳥来る父となりたる朝の髭	井上	きよ美
そそり立つ奇岩断崖夏怒濤	井上	けい子
蝌蚪に足ラストダンスの靴がない	加倉	井允子
轉やひたすらといふ頬の張り	北川	昭久
残照の運河明日は霧を呼ぶ	木之	下みゆき
ほの蒼く夏の干潟に手形置く	久野	康子
鶏頭花真ん中にある飢餓大陸	倉岡	けい
鎮魂の深き弥生のドラム缶	小林	俊子

ひるば

県内俳句協会・俳句連盟紹介

木更津市文化協会

木更津市文化祭・市民俳句大会

木更津の俳句は、戦前「曲水」の編集所が木更津にあつた事もあり、大正時代から「曲水」との関わりが深い。昭和三十年代には金鈴吟社主催の俳句大会（超結社）が、お正月に市内の商工会館で開催され、銚子、館山方面からの参加者もあり、百名ほどであつたという。昭和三十三年（一九五七）一月十二日、木更津市文化協会設立。

昭和四十六年（一九七二）十一月七日、第一回市民俳句大会が君津寺で開催。七十名ほどの

投句があつたという。第二回は、光明寺で開催。

後に、四市合同俳句大会が、平成二年六月十七日に開催。袖ヶ浦、木更津、富津、君津と会場持ち回りで、平成二十一年二十回で終了した。

この間、「曲水」の宮崎安子氏、すでに故人となられた「沖」の松本圭司氏、「きみさらす」の三苦知夫氏等がご尽力された。

現在は、市民俳句大会に第一回から参加されている「香雨」の鈴木秀朗氏、「新月」の貝原靖湖氏を審査員に迎え、新しく「好日」会員も参加。九月の第一日曜日に市民俳句大会を開催している。今年も、第四十四回を迎える。

更に市内の鎌足桜保存会は、小中学校も加え、第七回となるユニークな俳句活動を展開している。

（市民俳句大会実行委員長 川合憲子記）

星月夜首無し地蔵に百の耳
大空と大地の神話ぶきのとう
視界食みだす新緑の自由帳
どの駅も誰かの故郷いわし雲
物欲はまだ枯れ切らぬ福袋
漁火かいて狐火へ走る恋
動かざる山うごかして花万朶
冬木の芽明るき方へ眩けり
雨乞いのゴーヤ一本ぶら下がる
老梅の万雷といふ力かな
届かないからチュリップに戻る
秋麗やコントラバスを抱いては
月は一つ摩天楼にも砂漠にも
地に還るものの静けさ秋白し
てのひらに夜が来ている金魚の死

星月夜首無し地蔵に百の耳	椎名	鳳人
大空と大地の神話ぶきのとう	杉山	眞佐子
視界食みだす新緑の自由帳	関谷	ひろ子
どの駅も誰かの故郷いわし雲	千葉	智司
物欲はまだ枯れ切らぬ福袋	寺田	勝子
漁火かいて狐火へ走る恋	富澤	ムツ子
動かざる山うごかして花万朶	長井	寛
冬木の芽明るき方へ眩けり	永妻	和子
雨乞いのゴーヤ一本ぶら下がる	野口	京子
老梅の万雷といふ力かな	藤岡	貞夫
届かないからチュリップに戻る	藤田	富江
秋麗やコントラバスを抱いては	増田	元子
月は一つ摩天楼にも砂漠にも	三上	啓
地に還るものの静けさ秋白し	実籾	繁
てのひらに夜が来ている金魚の死	山崎	政江

（令和2年1月発行・野田俳句連盟）

●『ある学者の「人間の条件」 隅谷三喜男伝』 小野正之 著

隅谷三喜男は、著者の義理の叔父である。社会保障問題や世界平和に尽力された隅谷の自伝を読み、生き方に共感した著者が、五味川純平の小説『人間の条件』のモデルと隅谷が言われ続けた噂の真相を探るべく、多くの参考文献や情報などからその人生に深く切込み、社会学者の渾身の生き様を記録したノンフィクション・評伝記。

隅谷三喜男を偲んで（あとがきより）

牡丹雪天に還りし基督者

正之

当協会理事、流山市文化協会会長、国際俳句交流協会会員。著書『鉄の時代を生きて』他。

（令和2年3月発行・ブイツーソリューション）

菅谷たけしさんを悼む

能村 研三

風の出て明るき梢日脚伸ぶ たけし

菅谷たけしさんが亡くなる前にいただいた俳句作品で、この句が最後の句になった。菅谷さんの研ぎ澄まされた感性が滲み出ている句で、まだまだこの先も明るく生きていきたいと思う気持ちが溢れた句であるといえる。

菅谷さんは昭和十八年生まれで、私とは六歳違いで、いつからか菅谷さんを兄のような存在として親しくさせていた。たけし、「あんちゃん」と呼ばせていただいたことがある。

句集は『離陸』と『流星群』の二冊があり『離陸』の序文で能村登四郎は「非凡なる感性の働き」と良い句集が世に出たことを喜んだ。菅谷さんの作品はその人柄通り感性が豊かでやさしい眼差しが感じられた。

本協会においても長年理事をお務めいただき千葉県俳壇の発展に寄与された。私も会長として五年目の任期を務めているが、菅谷さんがいてこそ務めることが出来た。「あんちゃん、本当にありがとう。」

謹んでご冥福をお祈り申しあげます。

文音俳句会のご案内

今年度の通常総会等の中止に伴い新緑交流俳句会・懇親会は中止となりました。替りに文音俳句会を開催します。投句・選句などはすべて自宅で行える通信句会とします。皆さまぜひご参加ください。

記

- 投句 一人二句（別添の投句用紙を使用）
- 投句料 千円（投句用紙に同封）
- 投句締切 五月十五日
- 選句 選句稿を送付しますので、選句を同封の葉書に書き返送
- 賞品 二十位まで及び役員特選（クオカード）
- 発表 「真木」（七月発行）にて発表（入賞者には賞品を送付）
- 投句先 〒278-0037 野田市野田八一 倉岡けい方
- 問合せ 千葉県俳句作家協会文音俳句会係
〒263-0043 千葉市稲毛区小仲台8-22-2-101
電話 〇四三（二五五）七四四〇

以上

二〇二〇年四月吉日

千葉県俳句作家協会

会長 能村 研三

千葉県俳句作家協会

合同句集第十集への参加お願い

この度千葉県俳句作家協会の合同句集第十集を刊行したく、皆様のご協力をお願い申し上げます。

記

- 一句集名 「千葉県俳句作家協会 合同句集第十集 2020」
- 二 体 裁 A5版 並製（表紙カラー） 二五〇頁程度の見込み
- 三 内 容 作品、作者略歴、協会の歩み等
- 四 参加資格 千葉県俳句作家協会会員（会員以外でも応募時に入会手続きをすれば可。）
- 五 作 品 十句（未発表・既発表を問いません。ただし、第九集までの作品を除く。）
- 六 申込用紙 必ず添付の「参加申込書」をご使用ください。
- 七 送付先 〒285-0011 佐倉市山崎一六六-1-111 稗田寿明方
- 八 参加費 四千元（二冊以上ご希望の方は、一冊につき二千元を各自負担ください。）
※参加申込書の提出は、「郵送のみ」とします。
- 九 受付期間 令和二年二月二十五日から四月三十日まで
- 十 完成予定 令和二年十月

第62回 千葉県俳句大会 ご案内

作品募集について

1. 一般の部

- 募集作品** 雑詠 2句1組 (投句作品は、自作で未発表のものに限ります。投句は何組でも可で、組単位に採点、授賞致します)
- 応募資格** 千葉県内を俳句の活動拠点とされている方。
- 締切** 令和2年7月18日(土)(当日消印有効)
- 出句料** 一組 1,000円 投稿に添付(なるべく定額小為替でお願いします)
- 送付先** 〒276-0042 八千代市ゆりのき台3-4エルプレシア1101 前北かおる方
千葉県俳句大会・一般の部事務局 (携帯 090-4363-3501)
- 特別選者(記念講演あり)** 今井 聖(俳誌「街」主宰・俳人協会理事)
- 選者** 千葉県俳句作家協会役員(予定)

2. ジュニアの部

- 募集作品** 雑詠 1句(投句作品は、自作で未発表のものに限ります)
- 応募資格** 千葉県の小・中学校に在籍の児童・生徒
- 締切** 令和2年7月31日(金)(当日消印有効)
- 出句料** 無料
- 送付先** 〒270-0007 松戸市中金杉2-78 高橋 健文方
千葉県俳句大会・ジュニアの部事務局 (電話 047-713-6495)
- 選者** 千葉県俳句作家協会役員(有志)

大会について

- 期日** 令和2年10月18日(日) 午前9時30分受付(16時半終了予定)
- 会場** 千葉県文化会館(小ホール) 千葉市中央区市場町11番2号
- 主催** 千葉県、千葉県俳句作家協会
- 後援** 千葉県議会、千葉県教育委員会、千葉市、千葉市教育委員会、千葉市文化連盟、千葉市観光協会、千葉日報社、千葉テレビ放送、千葉県芸術文化団体協議会
- 次第** 事前出句による俳句会の表彰(一般:11時、ジュニア:11時)
当日句(席題当日発表2句、投句締切11時、句会13時30分より)
当日投句料 1,000円頂きます。
- 賞品** 千葉県知事賞、千葉県議会議長賞、千葉県教育長賞、千葉市長賞、千葉市議会議長賞、千葉市教育長賞、千葉市文化連盟会長賞、千葉県俳句作家協会会長賞、千葉日報社賞、千葉市観光協会会長賞、千葉テレビ放送賞、千葉県芸術文化団体協議会長賞、その他多数
- 注:入賞された方で欠席の場合、賞品の郵送は致しませんのでご了承ください。(代理受賞は可)

新入会員一句

禅寺の砂紋ふつくら春の雨
帯文も選句も鴻司鳥渡る

横尾かなな
北村 操

受贈誌より(前号より続き)

- | | | |
|-----------|-----------------|-------|
| 雑草(二月号) | 裸木となりて肝の坐りたる | 実粉 繁 |
| 鳴(二月号) | 川たうたう冬夕焼けを押し分けて | 高橋 道子 |
| 軸(二月号) | 冬麗の衿刈り上げて成人す | 秋尾 敏 |
| 新暦(三九六号) | 布袋腹撫でて一福四温晴 | 中路 素童 |
| 獺祭(二月号) | 朝日浴び雪折れの竹立ち上がる | 本田 攝子 |
| 夏日(三五七号) | 夕暮れて竹馬の竹匂ひだす | 望月 百代 |
| 野火(二月号) | みちのくの夜の深さやどんこ汁 | 菅野 孝夫 |
| 初蝶(三月号) | 火桶囲みてあの牡丹かの牡丹 | 中山 和子 |
| 万象(三月号) | 古九谷の花鳥の色絵年新た | 内海 良太 |
| ペガサス(六月号) | 曼珠沙華逃避行ならついて行く | 羽村美和子 |
| 百鳥(二月号) | 白鳥のこゑ初空を広げけり | 大串 章 |
| 遊牧(二二四号) | 柳散るされど夕暮れはまだ先 | 塩野谷 仁 |
| ろんど(二月号) | 第九いまだき翼に年暮るる | すずき巴里 |

あびこ(三四七号)	寒林の弾き出したる星の数 いには(三月号)	染谷 卓
浮巢(四月号)	言霊のやうな星々寒の内 寒風の一湾富士を隔てけり	村上喜代子 大木さつき
沖(四月号)	夜々芽吹く闇の微熱のただよへり	能村 研三
音信(三月号)	雪解けの地層太古の夢走る かずさホトトギス(二六〇八号)	白鳥紅星子 松風(秋季特集号)
響焰(三月号)	あるだけの青菜散らして七日粥	三枝かずを
草の実(三月号)	伏し目がちにもの言う男暖炉の火	米田 規子
原人(三月号)	久に酔ふ場末の止り木雪しんしん	逸見 真三
鴻(三月号)	追伸のやう骨董店の余寒	昼間たつお
好日(四月号)	綿虫の重さよ空の重たさよ	増成 栗人
祭演(五十九号)	風を待つ鳥あり十二月八日	高橋 健文
雑草(三月号)	蝶々のリズムで日向出来上がる	森須 蘭
鳴(三月号)	古利なる青咲き梅は禅の色	実初 繁
軸(三月号)	朗報のしづかに入る冬北斗	高橋 道子
新曆(三九七号)	探梅のような眼をして妻戻る	秋尾 敏
瀬祭(三月号)	極月や裏門固めし大灯籠	中路 素童
	春浅し灰と色づく雑木林	本田 攝子

夏日(三五八号)

読初の徳川夢声といふ男
野火(三月号)
一陽来復朝ご飯うまく食べ
初蝶(四月号)
雑飾る薄紙といふ脆きもの
万象(四月号)
目隠を外したやうに日脚伸ぶ
ペガサス(七月号)
大マスクそよいでみたい耳がある
百鳥(三月号)
行く年の湖国の闇を見つめけり
遊牧(一二五号)
追伸を託すなら野の一冬木
るんど(三月号)
枯木星星の迷子を預かり中

望月 百代
菅野 孝夫
中山 和子
内海 良太
羽村美和子
大串 章
塩野谷 仁
すぎ巴里

千葉県俳句作家協会運営基金のお願い

千葉県俳句作家協会のさらなる発展のため、運営基金を募集致します。皆様の積極的なご協力をお願い申し上げます。

◇一口 二千元

◇送付先 千葉県俳句作家協会基金口
郵便振替 〇〇一四〇〇一七九二〇八三

基金にご協力頂いた方のご芳名を会報「真木」に記し領収に替えさせていただきます。

基金御礼 (三月三十一日現在)

坂本 節子
(以上 二口 四〇〇〇円)

★年会費納入のお願い

年会費は三千元です。協会の円滑な運営のため未納の方は至急お振込みください。

年会費送付先 千葉県俳句作家協会
郵便振替 〇〇一五〇一六一三三三四四

事務局日誌

- ◆第五回理事会(出席者28名)
- 日時 令和2年2月11日(火) 10時から12時
会場 千葉市「ホテルポートプラザちば」
- 議事
- 1 第5回千葉県俳句大賞について
 - 2 令和2年新春交流会について
 - 3 第34回千葉県俳句作家協会賞について
 - 4 合同句集第10集の刊行について
 - 5 令和2年度千葉県俳句大会について
 - 6 令和2年秋季吟行会について
 - 7 会報「真木」一九二号について
 - 8 その他 事務局報告他

会員異動
新会員
横尾かんな(佐倉市) 北村 操(船橋市)

謹 計
菅谷たけし
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

・第三十四回の協会賞が決まりました。受賞の皆様おめでとうございます。今号は協会賞受賞作品、選考過程などを掲載しましたのでお読みください。

・コロナウィルスの影響で通常総会・新緑交流会等中止になりました。文音句会で楽しみましょう。(紀)

月刊
夏目
のびやかに自分史としての俳句を作る

主幸 望月百代

誌代(送料共) 半年 六,〇〇〇円
一年 一〇,〇〇〇円

〒270-0034 松戸市新松戸七-1-13
夏目発行所

FAX 047-345-6351
振替 〇〇一三〇一八一-一〇九六

月刊俳誌
沖
(おき)
俳句ルネッサンス

主 幸 能村 研三

新会員募集中

誌代 1年/15,600円
半年/7,800円
見本誌 1冊 800円

沖発行所
〒272-0021 市川市八幡6-16-19
TEL 047-334-4975
FAX 047-333-3051
振替 00170-6-161552

創刊 50周年
軸

軸俳句会
主宰 秋尾 敏

〒278-0005
野田市宮崎95-4
電話 04-7122-3921
Fax 050-5552-9110
84円切手3枚で見本誌贈呈

俳誌 **あびこ**
誌代(隔月刊) 一年 四〇〇〇円

〒270-1138 我孫子市下ヶ戸二八五
TEL 〇四一七二八二-四四四一

郵振替 〇〇一〇〇一四一-八九〇七四
あびこ俳句同好会

主幸 染谷 卓

一度きりの今を楽しむ
いには
俳句会

主幸 村上喜代子
新会員歓迎・添削指導します。

誌代1年 12,000円(月刊)
半年 6,000円 見本誌 500円
— いには俳句会 —

〒276-0036
千葉県八千代市高津 390-211
電話 047-458-1919
Fax 047-458-1895
振替 00280-9-131469
HP検索：いには俳句会

現代俳句同人誌
遊牧
代表 塩野谷 仁

同人費 一年 二〇〇〇円
誌友費 一年 六〇〇〇円

〒273-0033 船橋市本郷町五〇七-1-11三〇七
遊牧俳句会

電話 〇四七三三六-一〇八一
FAX 〇四七三二五-七七三八

歩いて俳句
あま
主幸 飯田 晴

創刊 鳥居三郎
師系 今井杏太郎

〒276-0023 八千代市勝田台一-七-一
D1-0005
電話&FAX 〇四七-四八七-七一二七
雲発行所

心を満たす俳句
鴻
「鴻」俳句会

主幸 増成栗人
師系 角川源義 吉田鴻司

発行所 〒271-0087 松戸市三矢小台二-四-一六谷口方
電話 〇四七三六三-四五〇八
FAX 〇四七三六六-一五一〇

◆誌代/年間 一〇,〇〇〇円

人間の総量
鳴
代表 高橋道子
創刊 田中午次郎
再刊 伊藤白潮

誌代 一ヶ月 一,〇〇〇円(送料共)
一年 一〇,〇〇〇円

〒277-0827 柏市松葉町四-七-二-三〇五
荒木甫方 鳴発行所

電話 〇四一七-一三三-七六三二
振替 〇〇一八〇一四一六-一五七二一
<http://shigi-haikukai.com/>